



TSUYAMA JC NEWS  
A S H I T A



http://tsuyamajc.or.jp/



https://www.facebook.com/tsuyamajc/



## 2020 Vol.3

- 01 特別対談
- 02 JICAスタッフとの対談
- 03 津山青年会議所ガールズトーク
- 04 吉井川河川敷合同清掃
- 05 津山市社会福祉協議会との災害ネットワーク協定書調印式を実施
- 06 津山市社会福祉協議会への令和2年7月豪雨災害義援金寄贈式
- 07 2020年の森 記念事業
- 08 令和に生きる青年経済人に必要な資質を身につけよう～渋沢栄一に学ぶ士魂商才～を開催
- 09 夢翔ける2020年の森プロジェクトの開催
- 10 キッズ未来プロジェクト  
ドライブインシアターで再発見! 家族のつながり!!を開催

## 特別対談 観光のあした



# 山本侑香 × 橋本安弘

「UJITEI」crafts&living  
「UJITEI」運営

一般社団法人 津山青年会議所  
第63代理事長



TSUYAMA JC NEWS  
A S H I T A

2020 Vol.3 (令和2年10月発行)

発行 一般社団法人津山青年会議所  
発行責任者 一般社団法人津山青年会議所  
岡山県津山市山ノ上30-9 ☎ 0868-22-6713 E-mail info@tsuyamajc.or.jp  
津山JCボランティア委員 委員長 松田和也

## 事業報告



2020.8.02  
吉井川河川敷合同清掃  
来年のごんごまつり開催を願い、企画部会を中心に河川敷清掃を実施しました。



2020.8.26  
津山市社会福祉協議会との  
災害ネットワーク協定書調印式を実施  
災害時、迅速に対応するために、津山市社会福祉協議会と災害ネットワーク協定が必要と考え、協議を重ね調印となりました。



2020.9.01  
津山市社会福祉協議会への  
令和2年7月豪雨災害義援金寄贈式  
全5回の街頭募金活動をもとに、合計「545,352円」の義援金が集まりました。



2020.9.04  
2020年の森 記念事業  
2020年の森事業が始まった時の想いを形にするため、津山市と共同でグリーンヒルズに桜を植樹しました。



2020.9.14  
令和に生きる青年経済人に  
必要な資質を身につけよう  
～渋沢栄一に学ぶ士魂商才～を開催  
就実短期大学幼児教育学科教授の小谷省吾氏をお招きし、衆楽園の迎賓館にて「論語と算盤」の内容を中心にご講演いただきました。



2020.9.19  
夢翔ける2020年の森  
プロジェクトの開催  
30、45、50、55周年記念事業の際に埋設されたタイムカプセルの掘り起こしと、2037年までの森の管理と市有林へ返却までの調印式を行いました。



2020.10.3-4  
キッズ未来プロジェクト  
ドライブインシアターで再発見!  
家族のつながり!!を開催  
未来を担う子供たちが家族と共に心に残る経験を通じて、家族のつながりを大切にする気持ちを育むことを目的に開催しました。

## 2021年 入会募集!!

### 津山青年会議所(JC®)とは

“明るい豊かな社会”の実現を同じ理想とし、次代の担い手たる責任感を持った指導者たんとする青年の団体です。JCにおける役職の任期は1年に限られています。一人ひとりの会員が優れたリーダーシップを持つ社会人となるため、1年ごとにさまざまな委員会や役職を経験することで、豊富な実践経験を積むことができ、個々の活動にフィードバックさせることができます。

### JC出身の代表的な著名人

財界、医業、土業など多くの業界の方がOBです。また後継の方もいればベンチャー企業などの多くの人材が在籍、輩出しています。

- 安倍晋三氏    ジョン・F・ケネディ氏    市川團蔵氏
- 麻生太郎氏    ビル・ゲイツ氏    稲尾和久氏
- 津山市長 谷口圭三氏    津山商工会議所会頭 松田欣也氏

### 津山JCの歴史

津山JCは、昭和33年(1958年)5月9日に岡山JCをスポンサーとし、日本で135番目に設立された青年会議所です。津山圏域の更なる発展に寄与できる団体であり続けると共に、津山青年会議所の歴史・伝統・信頼を継承し、未来を切り拓く新たな一歩を踏み出し、「新しい時代の魅力あふれるJC」を目指して新しい挑戦を行ってまいります。

### 入会資格

- 年齢が満20歳以上38歳以下であること。
- つやま圏域在住又は在勤の方とする。
- (一社)津山青年会議所会員2名以上の推薦があること。

青年会議所(JC)は、入会資格を持つ青年であれば、性別・人種・国籍・宗教の別なく、自由な個人の意志によって入会できます。20歳から40歳までという年齢制限は、JCが、青年の真摯な情熱を集結し社会に貢献することを目的に組織された青年のための団体だからです。

### 事業紹介



まちづくり事業



津山圏域の祭事への取り組み



青少年育成事業

一緒にまちをつくってみませんか?

会員募集中

●お問い合わせ 一般社団法人津山青年会議所事務局  
☎ 0868-22-6713    ✉ info@tsuyamajc.or.jp

入会をご希望される方は、事務局までご連絡いただくか、(一社)津山青年会議所ホームページのお問い合わせフォームをご利用ください。折り返しこちらよりご案内申し上げます。



http://tsuyamajc.or.jp/



https://www.facebook.com/tsuyamajc/





特別対談  
**観光のあした**  
**山本侑香 × 橋本安弘**  
 『UJITEIcrafts&living』 一般社団法人 津山青年会議所  
 『UJITEI』 運営 第63代理事長

**橋本理事長(以下、橋本)** まずは、山本様の現在のお仕事についてお話を聞かせていただきたいと思います。2012年より美作市に拠点を置いて活動されていますが、どのような経緯で、どのようなお仕事をされていますでしょうか。

**山本さん(以下、山本)** 私は津山市加茂町で生まれ高校まで津山で暮らしていました。卒業後は大阪芸術大学の工芸学科でデザインを学び、染め物の商社でデザインの仕事をしていました。その後結婚をして主人がベルギーの大学に進学する際、私も一緒にベルギーで暮らしていました。そして2012年に日本に戻る際、いつか生まれる子どもを田舎で育てたいという想いで、美作市に住

み、現在は地元の材料や伝統技術を活かしたプロダクトブランド『UJITEIcrafts&living』や津山市加茂町の実家を活用し、インバウンド向け宿『UJITEI』を運営しています。また、旧大原町の古民家の難波邸内を改装し、古民家宿『Hostel Antamina』やショップを運営、昨年美作市トムソーヤ冒険村の指定管理を受託し、運営に携わっています。

**橋本** 2014年に津山市加茂町の一棟貸しの農家民宿『UJITEI』を開業され、外国人観光客の滞りの流れをつくり、外国人観光客0人の加茂町に、年間1,000人弱の外国人観光客を呼ぶ結果を出されていますね。

け入れてくれました。例えば新聞配りをしている近所のおじさんは、自転車で観光をしているゲストを見つけて、ゲストに声をかけ、町中を軽トラで案内してくれたり、雑貨屋さんの店主の方は、趣味のバイクについているサイドカーにゲストを乗せて、ドライブで楽しませてくれました。ゲストに即興で曲を作るピアニストの方が来られた時は、地元の人を呼んで、ピアノと太鼓のセッションをして大盛り上がりしました。今でも1年に1回、その方が来た際には、ピアノと太鼓のセッションをするなど交流は続いています。みんな自分の町に遠くから観光に来てくれるのが嬉しいのだと思います。だからこそ、型にはまったものではなく、自分にできる「おもてなし」を力いっぱいしてくれま

**橋本** 津山青年会議所は、つやま圏域の広域観光について課題と考え取り組んでいます。かつての城下町の風情を色濃く残し、歴史的文化財産、鉄道近代化産業遺産、豊かな自然に囲まれた、魅力ある観光資源を有しています。また東北に目を向ければ、さらに多くの観光資源を有した地域でもありません。しかし、つやま圏域は僅かな滞在時間です。市外の目的地向かう通過型観光地となっているのが現状です。そこでこのたび、美作国観光連盟と一般社団法人津山青年会議所、一般社団法人美作青年会議所、一般社団法人真庭青年会議所が、美作国広域観光協力協定を結び、広域観光への共通認識をもつて、広域観光推進に協力体制を確立できるように計画をしています。これにより、県北で

観光客を囲い込み、点在していた観光資源を線で結び、津山を含めた県北の魅力の発信につなげていきます。さらに、私たちの住むまちには、近くにあるのに、まだ体験したことのない心躍る体験や見たことのない景色、触れたことのない文化、食べたことのない料理などが多くあります。コロナ禍だからこそ、自宅から30分から1時間で行ける旅行、知ってそうで知らない地元の魅力を再発見するマイクロツーリズムを推進したいと思っています。

**山本** とても素晴らしい事だと思います。観光で点在しているものを繋いでいく上で、魅力的なコンテンツや場所もある地域だと思います。もともとデザインをやっていた私が思う事は、その見せ方をどのように表現するかだと思います。UJITEIについても、特別なコンテンツを作ったわけではない、平和のどかな自然があることが一つのコンテンツであり、それを崩さず、いかに興味のある人を惹きつけるかを考えました。トムソーヤ冒険村の指定管理に関しても、今までのプロモーションを一新し、より魅力が伝わる形で発信することで、1年間で過去最多のお客様に来ていただくことができました。あとはこの地域にあるコンテンツを、暮らしている人がいかに気づけるかが問題です。都会と比べて「ない」ものを生むのではなく、「ある」ものに目を向けられれば、こだけでしか体験する事ができないコンテンツに気づくことができます。各地域で暮らす青年会議所の若い方々が中心となって、行政を動かしていく事は次の観光に繋がっていくと思いま

す。農家民宿『UJITEI』を運営していますが、もともとデザインをメインに仕事をしていて、観光に関しては素人だったんです。祖母の家が空き家になる時に、その家を使って何かしてみようということ始めたのがきっかけです。デザインの目線から、宿を一つのプロジェクトだと考え、どのように見せ、どのように発信し、どんなお客様に来ていただくかのストーリーを考えて始めました。今こそ農家民宿や民泊がありますが、当時は少なく海外の宿泊仲介サイトAirbnbに岡山で一番に登録したことをキッカケにして、外国人のお客様にご利用していただける民宿となりました。都会には泊まれるが、日本の田舎に泊まってみようというニーズがこんなにもあるんだと感じています。もしかしたら観光に對して素人だったからこそ良かったのかもしれません。

**橋本** 外国人観光客の方がUJITEIで色々な体験をされると伺いました。

**山本** 最初の頃は、体験をメインには考えていませんでした。UJITEIには実家の田んぼが近くにあり、その田んぼの稲刈りを、ゲスト(外国人宿泊者)に手伝ってもらったことで、ゲストの方が、体験することに興味があるのだと感じました。それから体験できるものを増やしてきました。ヒノキで染め物体験を始めたたり、生け花体験を作りました。この生け花体験も、山に花を摘みに行く事から体験し、生け花を作ります。また、しめ縄づくり体験もします。田舎での日々の暮らしを体験することは、こでしかできない

**橋本** 是非山本様にもご協力をいただけたいと思います。

**山本** 山本様はベルギーで暮らされた経歴を拝見させていただきました。ベルギーでは、初の女性首相のソフィー・ウイレルムス首相が新型コロナウイルス感染症に対して取り組まれ、活躍している姿をお見掛けします。北欧やEU諸国では女性活躍が進む中、2020年のジェンダーギャップ指数では27位と高水準です。一方、日本は121位と先進国では最下位となっています。女性の立場でベルギーやUJITEIに泊まりに来られる世界各国の方と日本の違いを教えてください。

**山本** 海外の人は自分たちの国が多民族国家であることに慣れています。つまりバックグラウンドが違う事が大前提で、自己を主張しない限り、自分が置き去りにされ認められない環境にいます。一方日本ではバックグラウンドが似た人の集まりの中で、相手思いやることで、空気を読んでしまい、なかなか発言ができなかったりします。それが会議において弊害をもたらしていると感じます。時間をかけて集まった結果、何も決まらな

**山本** 津山青年会議所では2015年まで、デザインの方で中心となって、行政を動かしていく事は次の観光に繋がっていくと思いま

自分たちの住むまちを再発見  
 いま、身近な風景を旅してみる  
**マイクロツーリズムという提案**

**橋本安弘**  
 Yasuhiro Hashimoto

昭和55年7月、津山市に生まれる。明治大学卒業後、株式会社サイバーエージェントに入社。平成20年に鶴山不動産株式会社に入社し、平成21年に代表取締役社長に就任後、現在に至る。一般社団法人津山青年会議所には平成21年1月に入会し、平成25年心の教育推進委員会委員長、平成27年岡山ブロック協議会真のリーダー育成委員会委員長、平成28年中国地区協議会運営専務、平成31年中国地区協議会副会長を歴任。



事だと考え、ゲストの方に体験してもらいます。1年間を通して、稲刈りや神事や季節感などをストーリーリーにしてゲストの方に体験を通して伝えられるようにしています。

**橋本** 外国人観光客の滞りの流れをつくり、年間1,000人の外国人観光客が加茂町に流入することで、まちに何か変化がありましたか。

**山本** 外国人観光客0人の町に突然外国人が来たときは、若干町がザワつきました。でも今やっている内容を説明するとみんな受

女性会員は過去に1名しかいない現状でした。しかし近年、女性への会員募集を強化し、現在46名の会員のうち、6名が女性会員となりました。今後もさらに女性会員を増やしていきたいと考えています。その上で、本年度は女性が活躍できる組織づくりに取り組み、発生する弊害をどのようにクリアするかに挑んでいます。女性会員の方の中には主婦の方や、お子様をおもちの方もいます。まちをよくしたいという、高い志をもって入った方が、組織の中で活躍でき、次代のつやまのオビニオンリーダーになれるよう共に成長できる組織を作っていきたいと思っています。

デザインの方で  
 地域に眠っている施設、  
 伝統、プロダクトを再生

**山本侑香**  
 Yuka Yamamoto



昭和59年7月生まれ。津山市加茂町で育つ。大阪芸術大学を卒業後、瀧定大阪株式会社、丸紅テックス株式会社にてテキスタイルの企画・デザインを行う。結婚後ベルギーに渡り、独立して生活全般のデザイン・制作を始める。帰国後、岡山県美作市に拠点を移し、プロダクトブランド「民芸新時代(現在UJITEIcrafts&livingに改名)」運営。津山市加茂町の実家を活用し、インバウンド向け宿『UJITEI』開業、美作市難波邸内に古民家宿『Hostel Antamina』開業、美作市トムソーヤ冒険村の指定管理受託。令和元年5月津山産業支援センターアドバイザー就任。

# JICA

## スタッフとの対談

### 守都未来 × 橋本安弘

JICA中国岡山デスク

一般社団法人 津山青年会議所  
第63代理事長



**橋本理事長(以下、橋本)** まず、守都様の現在のお仕事についてお話を聞かせていただきたいと思えます。2018年3月より岡山県JICAデスクとして活動されていますが、どのような経緯で、どのようなお仕事をされていますでしょうか。

**守都様(以下、守都)** 高校時代に関わっていた国際協力のボランティアをきっかけに、国際開発に関心を持ちました。海外の大学にて国際開発学を専攻しました。帰国後、地域の問題を解決する糸口と

なればと、外国にルーツをもち岡山で子育てをされている方々と交流し、外国人の孤立化を防ぐための任意団体「Planet Café」を立ち上げ、岡山でのネットワークづくりと情報交換の構築を目指しました。その後岡山ユニセフ協会にて、多国籍の子どもたちに関わる中で、もっと多くの方々に世界との現状や日本での取り組みについて知ってもらいたいと、出前授業の講師やイベントの企画実施などに携わる傍ら子育てサロンユニこクラブを主催していました。

現在は岡山県のJICA窓口として、岡山の地域とJICAの活動地域である開発途上国を結ぶ活動をしています。主には、自治体さんや国際協力にかかわる団体さんと連携し国際協力事業の広報啓発活動のほか、JICA草の根技術協力や民間連携事業の推進のほか、国際理解教育の推進、JICA海外協力隊事業への市民参加の促進や広報活動などを行っています。

**橋本** JICAは、人々が明るい未来を信じ多様な可能性を追求できる、自由で平和かつ豊かな世界を希求し、パートナーと手を携えて、信頼で世界をつなぐとのビジョンを持たれています。その中で、岡山県でも世界とつながるイベントを多く開催されていますね。

**守都** 途上国で活動するJICA海外協力隊の活動報告の場としての報告会や、パネル展のほか、国際協力の道を志す方向けのキャリアセミナーの開催、民間企業さん向けの海外展開セミナー、開発教育支援事業の一環としてのワークショップの開催、一般の方向けに異文化理解を促進するイベントなど、さまざまなイベントを企画・開催しています。国際社会に対する関心度や興味の矛先は一人ひとり異なるので、様々な関心層に向けて多様な切り口で国際協力や異文化理解の手助けになるような取り組みを行っています。

**橋本** これからますますグローバル市場が急速に拡大していますが、日本人の内向き志向が指摘され、グローバル化への対応が遅れていると思います。さらにつやま圏域は平成の市町村合併後初めて人口10万人を下回り、今後も人口減少は続く予想とされています。その中でつやま圏域を今後持続可能に発展させていくためには今までの

つやま圏域内だけではなく多種多様な価値観や考え方を取り入れていく事が必要だと思います。それに向けてどのような取り組みが必要だと思われませんか。

**守都** 多様な価値観を受け入れていくことで、新たな視点や気づ

きを得ることができそうです。そうした新しい視点を取り入れていくことで、課題解決に向けた新しいアイデアが生まれていくと考えています。私たちが暮らす世界には、多様な問題があり、それを解決していくためには、知恵を出し合いながら、新しい答えを見つけていく必要があります。また地域に暮らす人たちも多様なバックグラウンドをもち、その中には県外から転居してこられた方のほか、外国から来られた方々もいます。地域に暮らす方々が多様化していく中で、これまでのやり方や考え方に固執してしまうと、一部の人間にとっては利益があつたとしても、他の誰かに不利益をもたらすことになる可能性もあります。地域に暮らす一人ひとりとつとでどんな社会に暮らしたいのか、誰も取り残さないようにするために、どんなことができるのか、その答えを一人ひとりが当事者として考え、意見を持ち寄り行動し続けることが大切だと思います。

**橋本** 今回9月例会にて守都様を講師にグループワークを開催させていただきました。異文化コミュニケーションのバリエーションが今までの価値観を重要視する点や、形や色でグルーピングを判断する我々の中にある気づかない偏見を感じさせていただきました。それを解消して

いくためには感じた先の行動が大切だと思います。多文化共生社会を実現するために今後どのような行動が大切になってくると思われますか。

**守都** 橋本理事長は、講座を受けてられて、どのように行動することが大切だと思われましたか？

おそらく、講座を受講されたお一人お一人が受けた印象、感想、もやもやは人それぞれだと思います。それぞれ違う、ということを認識した上で、その違いをどう乗り越えていくのか、お互いの意見や気持ちを受け止め尊重しながら、試行錯誤をしていくことで、今よりもBETTERな社会になっていくのではないのでしょうか。

日本社会には、「郷に入るとは郷に従え」や「出る杭は打たれる」とのことわざがあるように、個人よりも集団が優先されたり、他者と同じように行動することが求められたりといった同調圧力が、少なからず存在する社会だと言われていると思います。講座の中で「仲間を見つけてください」と伝えた際に、参加者のみなさんが同じ色や形が割り当てられたシールを身に着けた人たちの仲間と認識しグルーピングしたのも、こうした背景が影響していると考えています。他者との共通点を見つけ、自分と結びつけて考えたり、他者との接点から歩み

寄りのヒントを見つけていくことは大切なことです。しかし、多様な個性が共存していく社会の中では、共通点を見つけること以外に、「違い」を知り、その違いを乗り越えていくためのお互いの歩み寄りとともに、どんなバックグラウンドがあっても排除されない仕組みづくりや取り組みもまた大切だと思います。たとえば、障がいを持った方にも使いやすいように「バリアフリー」という考え方が広まりましたが、障がいを持った方だけではなく、ご年配の方や小さなお子さん、妊婦さんや病気の方など、いろいろな状況にある方も健康な人も含め、だれにとつても使いやすいものとして、「ユニバーサルデザイン」という考え方が現在主流になりつつあります。異文化理解と多文化共生もこれにあたりと考えると、「異なる文化」を理解することは確かにバリアフリーにつながります。しかし自分たちも含め誰にとつても生きやすい社会を目指していくことが、本当の「多様な文化」と「共に生きる」社会づくりにつながっていくのではないのでしょうか。

**橋本** 津山青年会議所が目指している明るい豊かな社会というのも、明確な答えがないもので自分たちの中にある答えを探していく必要があるものです。それに向

Where there is a will,  
there is a way.  
(意志あるところに道あり)

守都未来  
Miki Morito

高知県生まれ岡山育ち。高校生の時にタイとカンボジアを訪れ、国際協力を志す。カナダにあるトロント大学にて国際開発学を専攻、卒業後は多文化共生を目指すPlanet Caféを立ち上げ活動。岡山県ユニセフ協会を経て2018年3月より現職。現在は岡山県内のJICA事業の窓口をされています。



## 9月例会事業『Think Globally Act Locally!!』の開催

9月19日(土)津山青年会議所の例会内で例会事業『Think Globally Act Locally!!』を開催しました。講師にJICA中国岡山デスクの守都未来氏をお招きして、グローバル人材に求められる資質をもち、地域間交流を促進することをテーマにご講演いただきました。講演では、体験ワークを交えながら、「知ったかぶり異文化紹介」や「バーンガ」という異文化コミュニケーションロールプレイングなどを行い、日本の常識がグローバル社会の中では通用しないことや、異文化を理解して多様な社会を作ることの重要性を学ぶことができました。津山青年会議所は今後も、多様な個性や価値、発想の違いを活かし、個々の人材の能力を最大限引き出すことができるダイバーシティの実現に取り組んでまいります。



Conversation for girls

女性からみた津山青年会議所って  
どんなところですか？

# 津山青年会議所 ガールズトーク

をさせていただきました。その後、津山青年会議所のことを調べ、まちづくり運動など幅広い活動をしていることを知り、自分自身の人脈を広げていきたいという思いで入会を決めました。

**福島有梨(以下、福島)** 私が入会したきっかけも、友人から声をかけてもらったことです。勧誘の熱意に驚いたこともありましたが、ちょうど飲食店をオープンした頃で、これから自らが商売をしていく中で、人脈を広げたいという想いがありました。また、お店を出した地域は城東地区で、古き良き街並みが現存する美しいエリアです。子供のためにも、このまちのために、自分ができることに挑戦

したいという気持ちで入会を決めました。

**西村絵理(以下、西村)** 私が入会したきっかけは、少し特殊かもしれません。主人がもともと津山青年会議所に入会していました。イキイキと頑張る姿を知っていましたが、まちのことに対しても熱い気持ちをもっている団体だと感じました。私は主人が40歳で卒業した2年後に入会しましたが、そのころ主人の仕事をサポートするため、以前から働いていた仕事を辞めた頃でした。津山青年会議所には、つやま圏域に根付く企業の次代を担う若手経営者が多いことから、入会すると自分の見識を広げることができる団体であ



**森本莉彩**  
Morimoto Risa  
2020年入会  
勤務先 南ビッグアップル

**福島有梨**  
Fukushima Yuri  
2020年入会  
勤務先 居酒屋「和楽家」

ると主人に強く入会を勧められたことがきっかけでした。

**橋本** 色々な想いで入会されましたが、入会してよかったことはあります。

**小倉美穂(以下、小倉)** 今まで出会ったことのないひとと出会えたことです。青年会議所には業種も違えば考え方も違うひとが沢山いて、常に刺激をもらうことが出ています。色々な視点で物事を判断する先輩方をみてみると、常に発見の連続です。私自身の中で凝り固まった考え方があることに気づかれます。また、スケジュール管理が上手くなりました。仕事をしながらの活動ですので、入会を理由に仕事をおろそかにしたくないという想いがあります。津山青

ることを楽しみにしています。

**森本莉彩(以下、森本)** 私は素晴らしい同期に恵まれたことです。本年度入会しましたが、11名の個性あふれる同期と出会うことができました。津山青年会議所の新会員研修では、家族よりも多くの時間を過ごしたかもしれませぬ。ひとそれぞれ色々な考えをもつて入会したメンバーでしたが、一つの目標に向かってみんなで取り組むことができるのが、津山青年会議所の素晴らしいところだと思えますし、そんな仲間ができたことが財産だと思います。

**佐古** 私も沢山の仲間ができたことが一番だと思います。入会しな

いと決って出会うことができないひとと出会えましたし、津山青年会議所の運動活動の中で、10代の頃の学校や部活を思い出すことがあります。難しいことに一生懸命に取り組んだり、計画や実行を通してワクワクする気持ちが芽生えたりと、沢山の仲間と大人の青春ができるのが津山青年会議所だと思います。そんな想いを恥じることなく共有できる仲間に出会えたことがよかったです。

**橋本** 女性が活躍する上で、変えて欲しいことはありませんか。

**森本** 例会などで集まる際、服装がともフオーマルなことがありますが、もっとオシャレがしたいと思いますし、男性のスーツ軍団の中に女性会員が入り込む際、「怖い」印象をもつ方は多いと思います。

**福島** 今年度の取り組みで産休育休制度が定款の中に盛り込まれたのは、女性が青年会議所に参加する上でも前進したことだと思います。お子さんをおもちのお母さんは、家庭のこともあります。また、男性会員でも育休がとれる仕組みになっているので、これを機に考えるきっかけになればいいと思います。また、他の青年会議所には例会などにベビースタイルを常設しているところもあるみ



たいです。そういった取り組みも今後必要だと思えます。

**小倉** 女性会員の意見をまとめ、津山青年会議所に提案する機能が組織内であればと思うことがあります。例えば津山青年会議所内に女性部会や、組織改革をする委員会などがあれば、変化が生まれるのではないかと思います。

**橋本** 最後に何かメッセージはありますか。

**森本** 私は、自分自身の世界を変えたいと思っていました。入会には不安なことが沢山ありましたが、何でもできるひとが入会できるのが津山青年会議所ではあり

ません。自分を変えたいと一歩踏み出してみると、沢山のひととの出会いと、それによって少しずつ成長する実感があります。入会して負荷がかかることもありすが、それを含めて楽しいのが津山青年会議所です。

**西村** 私も、本年度入会して生活がガラッと変わりました。いつもと同じことをしていた一日が、日々違うことへのチャレンジに変わったと感じます。今までであれば、苦手なことは後回しにして、得意なことを一生懸命することに慣れていましたが、津山青年会議所では、苦手なことにチャレンジする仕組みがあります。来年も沢山のひとと一緒にチャレンジでき

**小倉** 入会する際は自己の成長を望んで入会しましたが、今になって気づくことは、沢山のひとに支えられて津山青年会議所の運動活動ができていくことです。みんなで同じ目標に向かって行動し、達成できた時の感動には、その過程で津山青年会議所の仲間、家族、会社の方に支えられて実現できたことに改めて気づきます。今後もこの感謝の気持ちを忘れず、私たちが表に立って活躍すること、津山青年会議所の魅力を発信し、新しい女性会員が増えることに繋がればうれしいと思います。



**矢山香織**  
Yayama Kaori  
2016年入会  
勤務先 南のどか宅老所



**佐古 巖美**  
Sako Izumi  
2019年入会  
勤務先 佐古薬局

**小倉 美穂**  
Ogura Miho  
2020年入会  
勤務先 ㈱インテリアノタケ

**西村 絵理**  
Nishimura Eri  
2020年入会  
勤務先 Gestalt